

東日本大震災津波伝承館について

岩手県大船渡地域振興センター

○ 位置

高田松原津波復興祈念公園※内に再建される道の駅「高田松原」内

※ 国営追悼・祈念施設（仮称）を中心として、県・市が整備する区域も含め一体的な公園として、岩手県陸前高田市高田松原地区に整備されるものです。
（公園区域面積：約130ha）

○ 施設規模

鉄筋コンクリート造2階建のうち1階の約1,475㎡
（うち展示面積約1,340㎡）

○ 開館時期

ラグビーワールドカップ2019™釜石開催（2019年9月）前の開館を予定しています。

○ 施設の基本的な考え方

1 施設の整備方針

- ・ 東日本大震災津波の事実と教訓の、世界そして未来への伝承
- ・ 復興に立ち上がる姿と感謝の発信
- ・ 三陸沿岸地域へのゲートウェイ機能の発揮
- ・ 屋外の震災遺構等を震災被害の実物として展示

2 施設の使命

- ・ 多くの尊い命を失った東日本大震災津波のありのままの事実と命を守るための教訓を語り継ぎ、未来へ伝承
- ・ 世界に向け、災害を乗り越え、復興に向けて力強く歩んでいく姿を発信

3 展示のテーマ（展示を通じ、問いかけるもの）

いのちを守り、海と大地と共に生きる

～二度と東日本大震災津波の悲しみを繰り返さないために～

○ 名称・愛称の決定

名称：東日本大震災津波伝承館

東日本大震災津波の「事実と教訓」、そして東日本大震災津波からの「復興の姿」について、国内外及び次世代に伝承していくという、施設の性格を最も的確かつ端的に表した名称となるよう、外部有識者で構成する高田松原津波復興祈念公園震災津波伝承施設検討委員会委員の意見も参考に、平成30年3月に決定しました。

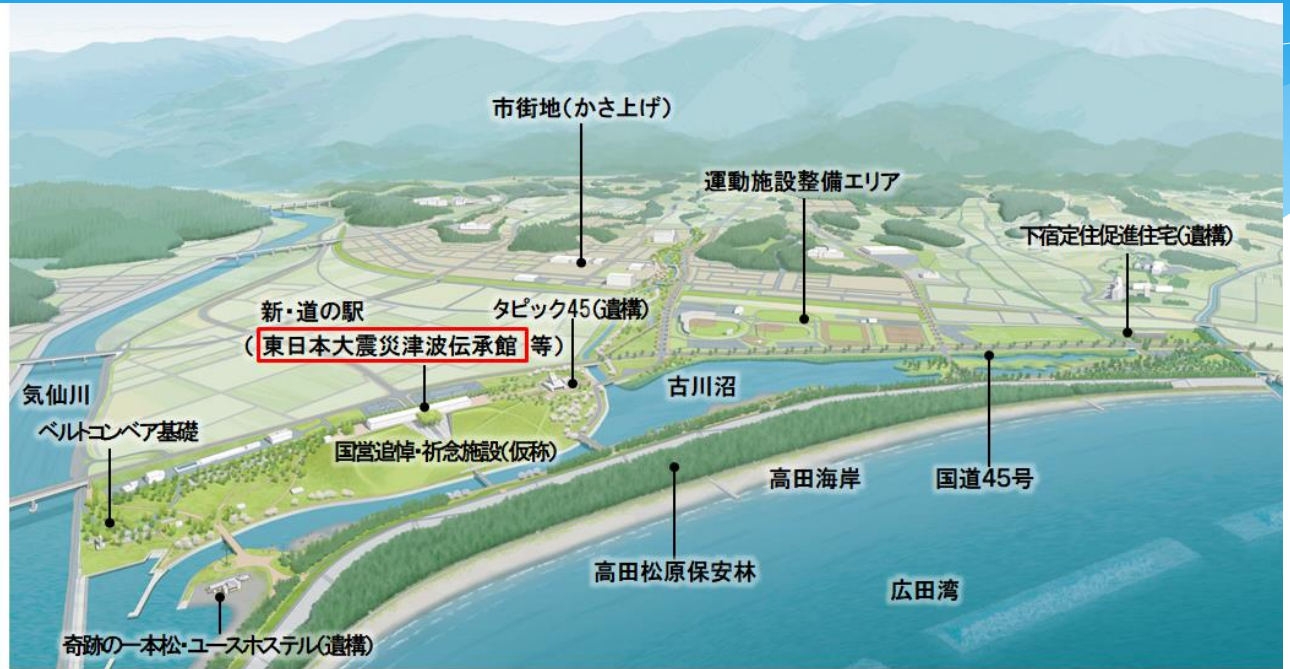
つ な み

愛称：いわてTSUNAMIメモリアル

名称の決定後、平成30年4月12日～5月11日の1か月愛称の公募を行ったところ、県内外から893件の応募がありました。

応募作の中から、高田高校1年 菅野 由夏さんの応募作品である「津波メモリアル高田館」を原案として、岩手全体に関わる展示施設であること、海外に向けた発信施設であること等を考慮し、関係機関の意見も参考に県が決定しました。

○ 高田松原津波復興祈念公園の鳥瞰イメージ



○ 展示のイメージ



注) 本資料における展示のイメージ画像は、展示等実施設計(骨子)案(平成29年7月)時点のものです。現在、高田松原津波復興祈念公園震災津波伝承施設検討委員会、関係機関等の意見を伺いながら、展示計画の調整を行っており、最終的な展示内容は変更されるものですので、御了承ください。

○ ゾーン0：地域と交流する

展示のねらい：来館者を最初に迎える場としてインフォメーションを提供するとともに、公園、陸前高田市街地、三陸沿岸地域へと誘う情報提供を行います。



地域情報の発信を行うなど、多様な交流を育む場、エントランス空間として整備し、24時間開放により常時地域情報を発信します。

また、本施設が立地する公園のフィールド、陸前高田市の復興市街地、そして、三陸沿岸地域へ誘うゲートウェイとしての機能を有します。

○ ゾーン1 歴史をひも解く

展示のねらい：すべての人間は自然災害リスクと隣り合わせに在ること、特に日本列島は自然災害リスクが高く、とりわけ三陸地域は津波の常襲地であること、それに対して知恵や技、文化を育み、自然災害への対応力を高めてきたことについて、歴史をひも解きながら伝えます。



三陸地域を中心に全国にも視野を広げながら、繰り返し襲来した津波の事実と日本人がそれにどう立ち向かい乗り越えてきたのかを時系列で辿り、映像でも紹介します。

○ ゾーン2 事実を知る

展示のねらい:東日本大震災津波の事実をありのままに伝え、津波の脅威、被害の実相、命が失われることの重さを、一人ひとりの心に刻みます。



東日本大震災津波で被災した現物を展示し、東日本大震災津波の実状について一人ひとりが思いを馳せ考える場とします。



実際の津波の姿を捉えた実写映像を活用して、津波の姿、その脅威を鮮明に描き出し、東日本大震災の津波がいかに巨大で、いかに恐ろしいものであったのかをしっかりと伝えます。

○ ゾーン3 教訓を学ぶ

展示のねらい:東日本大震災津波の経験から得た様々な教訓を伝え、知恵と技術で備え、主体的に行動することで多くの命を守れることを学びます。



災害対策室（当時の様子を再現）

東北地方整備局災害対策室で実際にどのような初動対応がなされたかを、当時の災害対策室の様子を可能な限り忠実に再現するほか、映像でも初動対応の状況を分かりやすく伝えます。



証言とデータで「逃げる」「逃げない」の避難行動の事実を伝え、教訓として学ぶことができる展示とします。

○ ゾーン4 復興を共に進める

展示のねらい:東日本大震災津波を乗り越えて進む被災地の姿を、全国・世界からの支援に対する感謝とともに伝えます。



「安全なまちづくり」「なりわいの再生」「次世代育成」「コミュニティの再生」の四つの切り口から復興への取組を紹介します。

特に、復興へのビジョンとその取組の「今」について発信し、地域再生・復興に取り組む人々の姿を生き生きと伝えることを目指します。



併せて、国内外からの厚い支援に対する感謝の気持ちを伝えます。